

光といのち

第88号

2014年5月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

住職 井上孝昌

他力の信心
うるひとを
うやまいおおきに
よるこべば
すなわち
わが親友とぞ
教主世尊は
ほめたまう
(親鸞聖人作)

真宗大谷派東京教区千葉組 東本願寺 宗祖親鸞聖人 七百五十回御遠忌法要



2014
5.17 午後1時～4時45分
(受付12時2分)
いのち 出遇う 連なる
於：千葉市民会館(千葉市中央区豊町1-1)

聖人一流の御勅化のおもむきは、信心をもって本とせられ候う。

南無阿弥陀仏

千葉組宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要をお勤めできますことを、御門徒の皆様と共に慶びたいと思います。

真宗大谷派は「宗祖としての親鸞聖人に遇う」の理念もと、この法要に向け、ご門徒の皆様と共に様々な取り組みをしてまいりました。

その一々が私にとりましては、自己を問い、無量寿なる自己との出遇いの場となりました。

この法要のテーマ「いのち出遇う 連なる」は、2010年の千葉組お待ち受け大会の際に定めたものです。

2011年5月に本山である真宗本願(東本願寺)宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に、千葉組で団体参拝した際に作成したパンフレットには、次のように記されています。

いのち —本願の表現—

今を生きることに迷妄し日々の苦悩に沈む私に、無量寿無量光を姿とする阿弥陀如来の本願が、私の自力の心(自我の執心)を破って、私の「いのち」とな

り生きてくださる。

出遇う —願生浄土の道—

遙か遠き戦乱饑饉の鎌倉時代に親鸞聖人が、苦悩の生涯をかけて明らかにされた「本願念仏」の世界。私はその世界に生きることを願いそして今、この世界に出遇い、生死の苦悩に立って生きて往ける道が開かれました。

連なる —同朋の発見—

無量寿・無量光の本願のはたらき、本願念仏の世界に出遇つてみれば、如来大悲の中で、すべてのものが御同朋としてこの私と連なることを知る。そのことから、人々が生死の苦悩生きる凡夫であることを知りました。

「いのち 出遇う 連なる」というテーマが具現化する場が、この法要です。

千葉県下から集まる大勢の御門徒と共にそのことを感じつつ、法要をお勤めしたい所存であります。

そして、この御遠忌法要が機縁となり、寺が親鸞聖人が顕らかにした本願念仏の道場となることを願って止みません。

南無阿弥陀仏

第一生命経済研究所というシンクタンク（政策の立案や提言をする研究機関）が出している『ライフデザインレポート』（2009年10月）に下記の文章がありました。

千葉組宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を機会に、ご門徒（お檀家）の皆様方にとって勝善寺が、どのような意味をもつ寺なのか？あるいは、どのようにあってほしいのか？を考えていただきたく思い掲載しました。

なお、紙面の制約がありグラフや部分的に文章を省きました。インターネットでこの題名を検索すると全部を見ることができます。

寺院とのかかわり ―寺院の今日的役割とは―

研究室長 小谷みどり

1. 調査の背景と概要

(1) 調査の背景

文化庁の「宗教統計調査」によれば、仏教系の宗教法人は全国に約 77,000 あるが、これはコンビニエンスストア（約 42,000）や公民館（約 17,000）の数よりはるかに多い。もともと寺院は、布教の場だけではなく、地域における福祉や文化、教育の拠点の役割を担っていた。江戸時代には宗旨人別帳によって、すべての人が寺院に所属していたが、こうした檀家と寺院の関係は、慣習として葬儀や法事の場面では今なお存続している。しかし昨今では、核家族化やイエ意識の希薄化、少子化、人口の地域間流動の激化などの社会環境の変化によって、お寺を取り巻く環境は大きく変化し、生活者の「寺離れ」はすすんでいると思われる。そこで本稿では、以下のアンケート結果から、生活者と寺院とのかかわりを概観し、寺離れの実態を探ってみたい。

(2) 調査の概要

<調査時期> 2009年2月1日～2月15日

<調査対象者> 40歳から69歳までの全国の男女600名（第一生命経済研究所生活調査モニターより抽出）

<調査方法> 郵送調査法

<有効回収数> 566名（有効回収率 94.3%）（単位：人、%）

<属性>

	40代	50代	60代	合計
男性	93 (32.6)	101 (35.5)	91 (31.9)	285 (100.0)
女性	93 (33.1)	87 (31.0)	101 (35.9)	281 (100.0)

2. 寺院とのかかわり

(1) 昨年1年間に寺院を訪問した目的 <複数回答>

昨年1年間に寺院を訪問した人は全体の76.9%おり、ほとんどの人はお寺を訪れていたが、その目的をたずねたところ、最も多かったのは「お墓参り」(62.8%)で、次いで多い「観光・旅行」(33.7%)、「法事」(30.5%)を大きく上回った。また「除夜の鐘つき・初詣」で訪れた人は28.9%いたが、日常的に行われる「お寺の行事（講演会、縁日、写経会、音楽会など）」に参加した人は14.5%しかいなかった。

(上記の他にグラフには、お通夜や葬儀 21.9 % 祈願・祈祷 21.0 % お供えや付届 8.1 % その他 4.6 % があります。)

そこで、寺院の行事のうち、参加してみたいと思うもの(3つまで選択)を選んでもらったところ、「どれにも参加したくない」と回答した人は 18.3 %にとどまった。一方、回答率が最も高かったのは「お坊さんの説法(法話や説教)を聴く会」(35.8%)で、「座禅」(27.8%)、「落語、演劇、音楽会などのイベント」(27.3%)、「お葬式や戒名、お墓についての勉強会」(24.3%)に参加したいと回答した人も少なくない。このことから、寺院活動への社会的関心は低くはないが、実際には葬送や観光以外で寺院を訪れる人は少ない様子が浮き彫りになった。

(上記の他にグラフには、写経 20.7 % お経や仏教についての勉強会 20.6 % 書道、茶道などのおけいこ、文化教室 17.2 % お釈迦様の誕生日(花まつり)、除夜の鐘つきなど仏教行事 15.4 % 滝に打たれたり、火の上を歩いたりする山岳修行体験 3.0 % があります)

3. 寺院や僧侶の役割

(1) 寺院はどのような活動をすべきか <3つまで選択>

次に、寺院はどのような活動をすべきかたずねたところ、「死者・先祖の供養」という回答が 78.2 %と最も多かったものの、「仏教の教えを広める活動」(48.8 %)や「介護や死の看取りなど、老い・病気・死に関わる取り組み」(29.8 %)を挙げた人は少なくなかった。「社会一般の人々を対象にした悩み相談」(17.9 %)や「自殺問題に対する取り組み」(6.6 %)など社会全体の問題への対応を期待する声は少ないが、それでも「お寺に期待する活動はない」と回答した人は 6.2 %しかいない。ふだん、葬送儀礼や観光でしか寺院と接点がない生活者が大半なので、寺院との関係が将来的に希薄化すると考えるのは当然だが、今回の調査結果では、生活者は「寺院は葬送儀礼だけをつかさどっておけばよい」とは決して考えていないことが分かる。寺院や僧侶が地域の人たちや檀家のこうしたニーズに対応していかなければ、両者の信頼関係は構築できず、生活者の寺離れはますます進む一方だ。これでは、寺院が公益法人として存在することの意義が問われても仕方ないだろう。

(上記の他にグラフには、世界平和への取り組み 18.1 % 子ども会、日曜学校等の青少幼年の情操教育 16.2 % ひきこもり、不登校等の青少幼年にたいする取り組み 4.3 % 環境問題への取り組み 1.8 % 無回答 0.5 % があります。)

4. まとめ

信仰がなくても、宗教に意義を感じている人はたくさんいる反面、僧侶が心の支えになると考える人が少ないということは、葬送儀礼を担う寺院と生活者が信頼関係を構築できていないことを示しているといえるだろう。しかし、寺院でおこなわれる法話や座禅などに参加したいという人は少なくないうえ、生老病死に関する取り組みを寺院に期待する人も少なくない。家族や地域共同体が変容している時代だからこそ、地域に根ざし、人々の生老病死に寄り添うという公益性が仏教寺院に強く求められている。(※ は、住職が引く。)

弔敬

去る一月十四日に
門徒総代 青木 實氏が、
一月二十六日には、
寺族責任役員 井上 純孝
が、相次ぎ浄土に還歸され
ました。
生前のご功績を偲び謹ん
で哀悼の意を表します。

新役員・新世話人紹介

三月十三日に臨時役員会
を開き欠員役員を選定し、
宗務総長に報告しました。

門徒総代 足達 崇 氏
寺族責任役員 井上 泰之

なお、青木 實 氏の後任
の世話人は、青木 敏夫 氏
をお願いしました。

また、二部上地区の世話
人は、今までの朝倉 智 氏
朝倉 和利 氏に加えて、
三堀 清 氏 にもお願いし、
三人で分担していただくこ
とになりました。

御遠忌のリハーサル

5月1日(木) 千葉市民会館
小ホールで、僧侶、坊守会役員、
門徒会役
員ら総勢
39名のス
タッフで
リハーサ
ルを行い
ました。



写真右
は、「帰命尽十方无尊光如来」の
十字名号をご本尊として懸け、
前卓(長机)に水引と打敷を掛
けているところです。写真左は、
受付と参詣者の誘導を担当する
門徒会役員です。右側三番目
が田村晋一氏です。

4月6日(日)の「花まつり」

私たち一
人ひとりの
尊さを教え
てくれたお
シヤカ様の
誕生を祝い、
甘茶をかけ
紙芝居やゲ
ームなどで
楽しみまし
た。今回も
西山三保子
さんが、お弟子さん三人と開い
てくださったお茶席には、子ど
もたちの長い行列ができました。



墓地入り口手すりの補修



墓地入り口階
段の手すりは、
子供や小柄なお
年寄りには位置
が高く危険でし
ました。
棒を一本加え、安全で頑丈に
しました。

行事予定

5月11日14時〜 同朋の会
(御遠忌参拝打ち合わせ)

5月17日 千葉組宗祖親鸞聖人
七百五十回御遠忌兼親鸞教室⑦

6月8日9時〜 八日講十日講
(同朋の会)

6月17日 親鸞教室⑧
6月26日 婦人研修会②

6月29日8時30分〜奉仕作業
7月20日14時〜 同朋の会

8月10日10時〜 孟蘭盆会
9月23日10時〜 秋彼岸会

11月15日 報恩講

※・以外は当寺が会場です。
新盆(初盆)法要を迎える方は、
早めにご相談ください。

派大谷宗
の切子灯籠

